

コンチェルト C 部門

- ・ショパンのスタイルは独特なので、声楽的な要素や華やかな面を意識しましょう。
- ・ショパンのルバートや即興性を更に重視し、自然さや突発性、自発性をもって弾きましょう。
- ・ニュアンスを更につけ、フレキシブルな強弱にしましょう。
- ・調性や和声の変化にもっと意識を向け、音色に変化を添えましょう。
- ・楽譜の指示、表現や明瞭さなどに適したテンポを選びましょう。
- ・コンチェルトでは大きく複雑な形式の一貫性を保ちましょう。
- ・長いフレーズを感じ、大きな感情のラインを構築しましょう。
- ・第1主題と第2主題のコントラストをよりはっきり感じましょう。
- ・モチーフやフレーズの最後の音に気をつけましょう（アクセントはつけず、やさしく）。

参加者全員、全楽章弾く実力のあるレベルの方たちだったと思う。皆良い点悪い点が違っていて審査が難しかった。

流石C部門の方達は全体を通してのバランスも良く音楽もよく練れたものになっている方も何人かいらした！矢張り左手をしっかり聴いて音楽のバランスを基に仕上げている人はわりと少なかったのは残念です。

全体的に完成度が高く安定感のある演奏でした。勢い、躍動感があり大きな音楽の流れで弾かれていました。感情的に歌いすぎず冷静に丁寧にメロディを美しく歌われていました。しっかり弾くあまり、少し重く感じる演奏もありました。心に響く素敵な演奏もあり幸せを感じながら聴きました。

全体として余裕のある演奏が多く見られ、良く伝わる表現でした。アンサンブルも良く慣れているように感じます。各楽章の特長をさらに追及して下さい。

演奏される曲目には長期間、参加者が取り組まれ、それぞれの思いを込められての出来を披露される満足度高い演奏に、次はどんな展開が表現されるか期待を膨らませて、ヘッドホーンから流れる音色で画面に吸い寄せられました。録画されるに当たっての場所選び、ビデオ撮りはどのようにするか、過去の出場者は様子が分かるでしょうが、第2ピアノの蓋の開ける高さ、といろいろ気配りに神経を使われた事かと思えます。審査側にとりましては毎年ホール全体の音の響き、ステージ（ピアノ）との距離でのバランスでさせて頂くのと、パソコンに写る奏者の近さの画像に新鮮さがありました。

皆様熱心に取り組まれ、よく勉強なさっておられると思います。技術的にはとても安定して難曲をよく弾きこなしておられ感心しました。ただ Chopin が音で何を言いたかったのか、どういう心情を表現したかったのかが伝わる演奏が少なかったかなと思います。もちろん弾く事がまず大変な曲ですが、呼吸や音色（かための音、やわらかい音、悲しい音、さびしい音 etc.）に配慮して大きなフレーズを作れるといいですね。